

競 技 注 意 事 項

1. 本大会は、2021年（公財）日本陸上競技連盟競技規則、（公社）日本マスターズ陸上競技連合競技規則、および第9回大阪マスターズ陸上競技大会の申し合わせ事項により実施する。
2. 競技場について
 - ・ 競技者・事前登録済の付添者の最初の入場は午前8時30分からとし、競技場「南側黄門」からのみとする。5000m、100m 参加以外の競技者は最初の出場種目開始時刻の2時間前から1時間前までに入場すること。指定時間以外の入場は認めない。その際、競技者受付で「選手証・付添者証（ADカード）」となるリストバンドの交付を受け、装着すること。
 - ・ 競技者は入場後ただちに1次招集を行うが、2種目出場者はこの時に同時に1次招集を済ませる。
 - ・ 競技者・付添者の待機場所としてメインスタンドを開放するので入場後、競技場内の南北の外階段から利用すること。正面玄関ホール付近およびメインスタンド下での場所とりは出来ない。
 - ・ 再入場は競技場「南側黄門」とし、「選手証・付添者証（ADカード）」（リストバンド）を競技役員に提示すること。
 - ・ 退場は、中央エントランスの「出口専用扉」のみとする。
 - ・ 無観客競技会として開催するので、競技場内への競技者の入場口は、競技場「南側黄門」からのみとし、その他の門は終日閉鎖とします。正面2階メインスタンド入口（南北の青門）は開放しない。
3. 更衣について
 - ・ 競技者の更衣用として、更衣室3部屋を開放する。（男2・女1）
 - ・ 更衣室の使用に際しては、競技場内からエントランスホール経由で入室し、更衣室使用後は北側用器具庫側通路を経由して再度、競技場内への一方通行とします。
 - ・ 更衣室の使用に際しては、入退室管理表に氏名および入退室時刻を記入すること。
 - ・ 更衣室の使用は1度に5人以内（入口に掲示）とし、使用時間は1人10分以内とする。
 - ・ 入室時に入室者数を確認すること。
 - ・ 更衣室内ではマスクを着用し、会話はしないこと。
 - ・ シャワー室の使用は禁止する。
 - ・ 更衣のみに使用し、更衣した衣服や荷物を置かないこと。また、清潔に使用すること。
4. 練習について
 - (1) トラック種目のウォーミングアップ場所は限定されるので、競技役員の指示により行うこと。
 - (2) 投てき種目の練習は危険をともなうので、各種目とも競技開始前に競技役員の指示により、投てき場内で行うこと。
5. 招集について
 - (1) 1次招集
 - ① 招集場所：競技者係（南側黄門）
 - ② 競技場入場後、競技者受付を済ませた後、直ちに1次招集を受けること。
 - ③ 競技開始時刻の2時間前～1時間前までに「体調管理チェックシート&1次コール用紙」を提出し、アスリートビブス（旧名称；ナンバーカード）および競技に使用するシューズ・スパイクの確認（世界陸連規則によるシューズの靴底の厚さ計測を含む）を受けることで招集完了とする。
 - ④ 2種目出場者は、競技開始時間が早い種目窓口でコールを受けること。また、2種目出場予定者が、1種目を欠場する場合は、その場で申告すること。
 - ⑤ トラック種目出場者は2次招集場所に置いているシール式の腰番号カード（以下、「腰ナンバーシール」という。返却不要）を各自で取ること。また、5000mへの出場者は、胸と背につける別

アスリートビブス（腰ナンバーシールと同じ番号・返却不要）を1次招集の際に受け取り着用すること。

（注）「腰ナンバーシール」の貼り付けができない、またははがれやすい競技者は安全ピンを各自で用意すること。

(2) 2次招集

招集場所：**現地**（トラック種目：スタート地点、フィールド種目：競技場所）

【トラック種目】 開始20分前 10分前完了

【フィールド種目】 開始40分前 30分前完了

（注）ただし、ハンマー投は 開始50分前 40分前完了 とする。

(3) 1次・2次招集に遅れた競技者は欠場したものとして処理する。

(4) 競技者は、スタートリストに記載されたアスリートビブスで出場すること。

(5) トラック種目出場者は腰ナンバーシールを右腰に貼り付け、5000mへの出場者は、胸と背につける別番号布（腰ナンバーシールと同じ番号）を着用し、2次招集場所でアスリートビブスと腰ナンバーシールの点検を受けること。

5. アスリートビブス（旧名称；ナンバーカード）について

① アスリートビブスは各自持参したものを使用すること。ただし、本大会は大阪、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山の各府県マスターズ会員を対象とするため、府県番号（2桁）と会員登録番号（4桁）が明示されていること。

② 競技者は、アスリートビブスをユニフォームの胸と背につけ、安全ピンで四隅を留めること。ただし、跳躍の競技者は、胸または背のいずれかにつければよい。

③ アスリートビブスがない場合、不織布製の番号布を販売（1枚；200円）するので、競技者受付にて購入し、その場所で各自作成すること。（注）筆記用具は競技者受付にて貸し出す。

6. 競技について

(1) 競技者の出場する競技種目の変更は一切認めない。

(2) 年齢に不正があった場合は失格となる。

(3) 競技用具、スパイクについて

① 競技に使用する器具は、棒高跳のポール以外は主催者が用意したものを使用する。

② スパイクのピンは9mm以内とする。ただし、走高跳とやり投は12mm以内とする。ピンの本数は11本以内とする。

③ トラックおよびフィールド競技においては、WA(世界陸連)改訂規則に伴う靴底の厚さを守ること。1次招集時にスパイクのチェックと同様にシューズのチェックを行う。

（注）別表3・靴底の厚さに関する規定・表参照

(4) 競技者は、着用する衣類に、競技者の所属するクラブ名または団体名以外、規定の大きさ以上の製造会社名、商品名、製造会社を意味する図案および商標等の広告的なものをつけてはいけない。

(5) 競技時間は、競技の進行上多少の変動がある。

(6) トラック競技

① トラック競技は全て写真判定装置を使用する。

② スターターの合図は、英語（「On Your marks」「Set」）で行う。

③ 一つのレースにおいて、不正スタートをした競技者は失格とする。

<クラウチングスタートの場合>

・号砲前に、飛び出した場合（地面より手足が離れた時）を、不正スタートとする。

・号砲と同時に選手が動いた場合（地面より手足が離れない時）は、全て「注意」とする。

<スタンディングスタートの場合>

- ・スターターが「On Your marks」または「Set」を発声してから、号砲前もしくは号砲と同時に動いた場合、
 - *スタートラインを超えた場合、不正スタートとする。
 - *スタートラインを超えない場合（その場でのふらつき）、全て「注意」とする。
- ④ 参加人数によって、クラスの混合となる場合がある。なお、当日の参加人数によって、組またはレーンの変更を行う場合がある。
- ⑤ トラック競技は全てタイムレースで行う。
 - ・同記録で着差がない場合、または組が異なる場合は、生年月日の早い者を上位とする。
- ⑥ 以下の種目では、最終の周回通過が下記の制限時間を超えた場合は新たな周回に入ることとはできず、競技を打ち切ることにする。
 - ・ 3000m…18分、5000m…28分
- ⑦ フィニッシュ後は、本部前を通らないこと。

(7) フィールド競技

- ① 試技順
 - ・ 試技順は全競技ともプログラム記載の番号順とする。
 - ・ 同一時間帯中に他の競技に出場する競技者は、審判主任に申し出ること。その場合、競走種目を優先し、試技の順序を適宜変更するが、その競技者は他の種目出場中に失ったラウンドを要求することはできない。
- ② 試技数
 - ・ 走高跳および棒高跳を除くフィールド競技において、試技数は3回とする。
 - ・ 試技は申出により放棄することができる。
 - ・ 投てき競技の公式練習回数は、ハンマー投は1回、砲丸投・円盤投・やり投は2回とする。
- ③ 順位の決め方
 - ・ 走高跳を除くフィールド競技において、1位の記録が同記録の場合は、その競技者の2番目の記録で順位を決める。それでも決まらない場合は、3番目の記録とし、以下同様にして決める。それでも決まらない場合は、生年月日の早いものを上位とする。
- ⑥ 走幅跳、三段跳のAピットはスタンド側、Bピットはトラック側とする。
- ⑦ 投てき競技の最小重量基準は別表1のとおり。
- ⑧ 走高跳のバーの上げ方は、別表2を基準とし、審判主任の指示に従う。
- ⑨ 走幅跳の踏切位置は、2m、1mとする。
- ⑩ 三段跳・立五段跳の踏切位置は、5m、7m、9m、11m、13mとする。
- ⑪ 投てき競技や棒高跳の滑り止めについては、主催者は準備をしないので、個人で持参すること。また、感染症予防のため個人持ちの用具の貸し借りは禁じます。

7. 表彰について

- ① 全出場者の中から各年齢クラス・種目別の1位、2位、3位には賞状をお渡しします。ただし、運営の都合上、受賞者に後日、郵送します。

8. その他

- (1) 競技会開催中の負傷については、応急措置の負担は主催者が行うが、その後の治療は本人負担とする。ただし、主催者は、一日傷害保険に加入する。
- (2) 競技場入場の際には、競技者・付添者とも検温を受け、手指消毒をした後、競技者受付で受付を済ませ、「選手証・付添者証 (AD カード)」（リストバンド）を受け取り、競技者は、直ちに、競技者係で1次招集を受けること。

- ① 事前登録済の付添者は、競技者と一緒に競技者受付で確認を受けること。
- ② 体調管理チェックシート
競技者は、受付で体調管理チェックシートの確認を受け、1次招集に提出すること。付添者は、受付で提出すること。
- ③ 「選手証・付添者証 (AD カード)」(リストバンド)
競技者受付で体調管理チェックシート確認後「選手証・付添者証 (AD カード)」となるリストバンドを交付するので、各自、装着すること。リストバンドの装着がない競技者・付添者は再入場ができない。また、未装着者には退場を求めることもあるので留意すること。

(3) その他の注意事項

- ① 全ての競技者および付添者は、競技終了後手洗い場所で手洗い・消毒を行ってから速やかに退場すること。
- ② 通信機器（携帯電話等）を、トラックまたはフィールド内に持込んではならない。
- ③ フィールドの芝生内は全面立ち入り禁止とする。
- ④ 競技場内外での、場所取りは全て禁止とする。
- ⑤ スタンドの使用は、当日「体温チェック」と「健康状態申告兼体調管理チェックシート」を提出し、「選手証・付添者証 (AD カード)」(リストバンド)の発行を受けた競技者および事前登録の付添者のみとし、メインスタンドを競技者待機所として使用する。サイドスタンド（土盛スタンド）およびバックスタンドへ立入・使用は禁止する。使用時は各自、人と人との距離を確保すること。なお、メインスタンドへの入場は、競技場内のメインスタンドの南北外階段からとする。
- ⑥ 声を出しての応援は禁止する。
- ⑦ 横断幕の設置は全て禁止する。
- ⑧ 当日はゴミ箱を撤去しているので、ゴミは競技者または付添者が全て持ち帰ること。
- ⑨ 記録の貼り出し掲示は行わない。後日、大阪マスターズのホームページに掲載する。
- ⑩ スタートリストへの記載漏れや訂正は、競技者受付係に申し出ること。
- ⑪ 感染症予防のため個人持ちの用具の貸し借りは禁止する。
- ⑫ 盗難が多発しているため貴重品は各自で保管するなど持ち物の管理には注意すること。
- ⑬ 大阪コロナウイルス追跡システムに登録すること。

9. 免責事項について

- (1) 競技中に生じた事故について、応急処置の他一切の責任は負わないので、各自傷害保険等に加入しておくこと。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の感染状況により、急遽、競技会について変更になる場合がある。
- (3) 競技会に関わる全ての人の感染に対するいかなる責任を負わない。

大阪マスターズとして新型コロナウイルス感染防止対策を実施し、感染が起これないように努力しますが、参加される競技者におかれましても、各自感染防止対策を自ら行っていただくとともに、大阪マスターズからの感染防止対策による指示等について、ご理解の上守っていただきますようご協力をお願いします。

<別表 1> 投てき競技用具の最小重量基準

| | クラス | 砲丸・ハンマー | 円 盤 | や り | 重 量 |
|----|---------|----------|---------|------|----------|
| 男子 | M24～M45 | 7.260 kg | 2.0 kg | 800g | 15.88 kg |
| | M50～M55 | 6.0 kg | 1.5 kg | 700g | 11.34 kg |
| | M60～M65 | 5.0 kg | 1.0 kg | 600g | 9.08 kg |
| | M70～M75 | 4.0 kg | 1.0 kg | 500g | 7.26 kg |
| | M80+ | 3.0 kg | 1.0 kg | 400g | 5.45 kg |
| 女子 | W24～W45 | 4.0 kg | 1.0 kg | 600g | 9.08 kg |
| | W50～W55 | 3.0 kg | 1.0 kg | 500g | 7.26 kg |
| | W60～W70 | 3.0kg | 1.0 kg | 500g | 5.45 kg |
| | W75 | 2.0 kg | 0.75 kg | 400g | 4.00 kg |
| | W80+ | 2.0 kg | 0.75 kg | 400g | 4.00 kg |

<別表 2> 走高跳のバーの上げ方基準

| 性別 | クラス | バーの高さ | | | |
|------|---------|-------|-----------|-------|---------------|
| | | 練 習 | 走高跳バーの上げ幅 | | |
| 男子 | M24～M30 | 1.35m | 1.40m | 1.45m | 以後 5 cm 刻み |
| | M35 | 1.35m | 1.40m | 1.45m | |
| | M40 | 1.25m | 1.30m | 1.35m | |
| | M45 | 1.25m | 1.30m | 1.35m | |
| | M50 | 1.20m | 1.25m | 1.30m | |
| | M55 | 1.10m | 1.15m | 1.20m | |
| | M60 | 1.00m | 1.05m | 1.10m | |
| | M65 | 1.00m | 1.05m | 1.10m | |
| | M70 | 0.95m | 1.00m | 1.05m | |
| | M75 | 0.95m | 1.00m | 1.05m | |
| | M80～ | 0.95m | 1.00m | 1.05m | |
| 女子 | W24～W25 | 1.20m | 1.25m | 1.30m | 以後 3 cm 刻み |
| | W30 | 1.20m | 1.25m | 1.30m | |
| | W35 | 1.10m | 1.15m | 1.20m | |
| | W40 | 0.95m | 1.00m | 1.05m | |
| | W45 | 0.85m | 0.90m | 0.95m | |
| | W50 | 0.85m | 0.90m | 0.95m | |
| | W55 | 0.80m | 0.85m | 0.90m | |
| | W60 | 0.80m | 0.85m | 0.90m | |
| | W65 | 0.75m | 0.80m | 0.85m | |
| | W70 | 0.75m | 0.80m | 0.85m | |
| | W75 | 0.75m | 0.80m | 0.85m | |
| W80～ | 0.75m | 0.80m | 0.85m | | |

<別表 3>靴底の厚さに関する規定 (TR5.13.3) 表

| 種 目 | 靴底最大の厚さ (TR5.5、TR5.13.3) | 要 件・備 考 |
|---------------------------------|-----------------------------|---|
| フィールド種目 (除：三段跳) | 2 0 mm | 投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。 |
| 三段跳 | 2 5 mm | 靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。 |
| トラック種目 (ハードル種目を含み、800m未満の種目) | 2 0 mm | リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 |
| トラック種目 (障害物競走を含み、800m以上の種目) | 2 5 mm | リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。(競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは4 0 mm) |
| 競技場内で行う競歩 | 4 0 mm | |
| 道路競技 (競争・競歩) | 4 0 mm | |